

礼儀指導と心を育てる

・・・それぞれの微妙な違い

230119

友人の車に乗っていた時、信号が赤に変わり停車しました。すると左側の小道から軽自動車が合流したように寄ってきました。友人は、その車を割り込ませてあげました。ところが、合流させた後で、友人が慥然としてこう言いました。「何だ、あの車。お礼の合図くらいしてくれてもいいのに…」これを聞いて、冬の日のある出来事を思い出しました。

雪が降った日のこと。細い一本道で、お母さんと小学校3年生くらいの女の子が歩いていました。すると向こうからも、若い女の人がやってきました。お母さんが、そっと脇によって女の人が通り過ぎるのを待ちました。女の子もお母さんと同じように、脇に寄って待ちました。とても爽やかな光景でした。ところがその若い女の方は、お礼も言わずに、つんと澄ましてすれ違って行ってしまいました。

女の子がお母さんに言いました。「あの人、ずいぶん礼儀知らずだね」するとお母さんが言いました。「世の中にもそのような人もいるんだよ。あなただったら、何て言うかな？」素敵な母娘だなと思いました。礼儀の指導は、その時その場で行うのが効果的です。ただし、事例の場合は、心を育てるという意識で考えるともっと良い方法がありました。それは道を譲ったときの、あの爽やかさを失わずに行う方法です。「あの人は、きっと急いでいたんだよ。でもね、お母さんは、お礼を言われたくて道を譲ったわけではないんだよ」

(「週刊教育資料」より)